

事業所名: グループホーム あしたば

作成日: 平成 30 年 12 月 31 日

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】 注)「項目番号」の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。					
優先順位	項目番号	次のステップに向けて取り組みたい内容	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	11	今後も役職者等の役割を明確にすると共に、行事等の企画段階から職員個々の意見やアイデアを集約し、職員が主体的に行動できるようにしていきたいと考えている。	当分の間は役職(管理)者・非役職者の区別を無くし、第三者としての事業所運営コンサルチームが個々の役職からの聞き取りを定期的に行いながら、開設者代表が中心となって古き悪しき習慣を取り除き、入居者と触れ合っている介護職員が自主的且つ主体的に行動できるよう改進する。	行事等の企画運営全てを役職者を除く全職員で運営する。早速だが、訪問調査後に実施したクリスマス会を、開催準備～当日の進行～最終報告迄の全てを、職員から選出されたリーダーのもとで、役職(管理)者を除く職員のみで運営した。年間行事計画・行事实施計画等を全職員で作成。今後は、役職(管理)者の役割・業務を明確にする。	12 ヶ月
2	37	自然災害のマニュアルを作られており、今後は各種の自然災害を想定した避難誘導などを実践したり非常食(ペースト状など)の確保の検討を行う予定である。	既成の自然災害マニュアルを、平成29年6月改正水防法の市町村防災計画に定められた要配慮者利用施設「避難確保計画」に基づいたものに見直して作成提出し、行政からの助言を受けて実現可能なものに近づける。	既成の自然災害マニュアルは「過去60年以上浸水していない」「どの避難所への経路上にも浸水想定区域と土砂災害警戒区域がある」ことを前提に作成しており、「路面より50cm以上高い共同生活居室で救助を待つ」ことを基本としている。入居者の状況を鑑み、実現困難な避難よりも屋内安全確保(救助待機)に備えた資器材等の物資確保を、全職員からの提案を集約検討して行いたい。	12 ヶ月
3	51	車いすを利用する方も増えており、散歩の機会は減っている。今後も体調や天候などを見ながら、少人数でのドライブを行い、“今しかできない外出”“今しか見れないお花見等”の機会を増やしていく予定である。	周辺道路にはガードレール・歩道がなく凹凸も多く、公共機関に隣接しているので、それなりに一般車の通行もあり、路線バスも通行(ホーム前にバス停)するので、リスクが高い。全職員で作成した年間行事計画に沿って、外出やドライブ等を行うよう努力する。	項目11と同じく、全職員で作成した年間行事計画等に沿い、個々の入居者の体調と天候等のバランスを観察して、中庭や、田園に接した裏庭での太陽浴を兼ねたプチ外出や、福祉車両を使用した個別での花見等を兼ねた“今しかできない”ドライブなどの外出を、役職(管理)者を含む一人でも多くの職員が協力して行いたい。	12 ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月